

第2回誇りがもてる美しい都市分科会 議事要旨

1 開催日時

平成 26 年 1 月 28 日(水) 15 時 00 分～17 時 00 分

2 会場

久留米市商工会館 2 階 202 会議室

3 出席委員(順不同)

委員 7 名

藤田八暉分科会長、坂井政樹副分科会長

石井俊一委員、津留崎芳春委員、深井敦夫委員、大森洋子委員、池尻登委員

4 欠席者

委員 1 名

藤田雅俊委員

5 議事

(1)久留米市新総合計画次期基本計画骨子案について

①次期基本計画における重点課題について

②取り組むべき施策や課題、施策(小分類)内容について

6 その他

発言要旨

1. 前回欠席の委員紹介と自己紹介等

- 事務局より、前回御欠席の津留崎芳春委員(久留米市農業委員会会長)と大森洋子委員(久留米工業大学教授)を紹介。

2. 議事

(1) 久留米市新総合計画次期基本計画骨子案について

- 分科会の議事録についても公開することを確認。
- 本日及び今後の分科会での審議の進め方について確認。

① 次期基本計画における重点課題について

○ 藤田八暉分科会長

(2)「住み続けたいと思える、住み続けられる地域社会の形成」の冒頭の文章、「持続的に発展していくためには、」と文章が始まっているが、ここは「住み続けたいと思える、住み続けられる地域社会の形成をしていくためには、」という書き出しの方がよりはっきりするのではないか。

○ 津留崎芳春委員

農振地域、市街化調整区域、商業区域などの線引きの問題についても、計画の中に挙げた方がよい。企業誘致についてもしっかり取組んでいくべきである。

○ 大森洋子委員

公共交通が充実しないとコンパクトシティも実現出来ない。今の西鉄久留米を中心とした放射状のバス路線は横に動くことが出来ず、非常に不便な交通体系になっている。これを改善しなければ、車に頼らざるをえなくなり、コンパクトシティや環境負荷の低減は進まない。

○ 深井敦夫委員

(1)「持続する 21 世紀型都市の構築」については、最初に都市構造、次に高齢者、その次は子どもという構成になっている。高齢者に関して、超高齢社会に対応する共助の仕組みと書いてあるが、社会全体で高齢者の暮らし、生き甲斐を支えるような仕組みについてははっきり示したほうがよいのではないか。

(2)「住み続けたいと思える、住み続けられる地域社会の形成」については、公共交通なども含めた、生活環境レベルの身の回りの環境の向上についても触れたほうがよい。

(3)「幸せを実感できる市民生活の実現」のところでは、都市プラザの整備などもあり、豊かな文化、歴史資源の活用など、もっと夢のある話を盛込んだ方が前向きな課題設定になるのではないか。

○ 坂井政樹副分科会長

エネルギー施策も含めて、今の日本は大変大きな課題を突きつけられており、スマートシティの構想も含めて整理し、今の時代潮流や課題に合わせた方がよいのではないか。

また、社会福祉、社会保障制度では、高齢者を地域で支える地域の包括ケアの方向性が示されているが、子育ても含めたところで、共助の仕組みを地域でしっかり機能させる、その仕組みを共有するという意識づくりを進めて行くということを計画に盛り込めればよい。

○ 池尻登委員

住みよいまちにしていくためには、市民が協力し、意見を出し合っていかなければならない。

○ 津留崎芳春委員

道路事情がよくならなければ住みよいまちにはならないので、計画にしっかりと盛り込んでもらいたい。

■ 藤田八暉分科会長より、「次期基本計画における重点課題」について分科会意見を整理。

② 取り組むべき施策や課題、施策(小分類)内容について

【小分類「四季と歴史が見えるまち」について】

○ 大森洋子委員

都市景観づくりや、花と緑あふれる空間づくりは小分類にあるが、農村景観の重要性がどこにも触れられていないので、都市部のことだけという感じを受ける。農村、農地景観とか、あるいは山村景観、あるいは歴史的な集落景観などについても、積極的に触れるべきではないか。

○ 深井敦夫委員

「魅力ある歴史資源の未来への継承」については、市外も含めて積極的に情報を発信するという書き方がよいのではないか。

○ 大森洋子委員

学校教育にも活かすということも必要である。

■ 藤田八暉分科会長より、「四季と歴史が見えるまち」について分科会意見を整理。

【小分類「快適な都市生活を支えるまち」について】

○ 石井俊一委員

地域生活拠点以外の地域のことも考えなければ持続可能とはいえないので、そこにも触れるべきではないか。

○ 坂井政樹副分科会長

生活機能の集積という表現ではなく、地域生活機能の充実という表現に変えた方がいいのではないか。

○ 大森洋子委員

快適な都市基盤・生活基盤の構築では、防災という視点はどうなっているのか。

■ 事務局

次期計画については、第2章の「市民一人ひとりが輝く都市久留米」に、「安全で安心して暮らせるまち」という中分類を新設し、2「防災力の強化」でハード、ソフト両面から整理している。

○ 深井敦夫委員

防災力の強化、もしくは、都市基盤の整備のどちらかで、安心安全の観点を含めてしっかり記載するべきだろう。

○ 大森洋子委員

歴史まちづくり法などもあり、重点区域などでの電線地中化についても、都市景観づくりの中に書いても良いのではないか。

■ 事務局

防災についての整理はどのようにするか。今は都市基盤と防災を別にしてはいるが、インフラ整備・都市基盤の中で整理した方がいいということか。

○ 深井敦夫委員

都市基盤整備は、快適性と防災の両方の観点を併せ持っているものが多いので、3「快適な都市基盤・生活基盤の構築」に、防災のことも含めて整理したほうがいいのではないかと。

○ 坂井政樹副分科会長

第2節の2「防災力の強化」ではソフト面に重点を置くようにして、第1節の3「快適な都市基盤・生活基盤の構築」ではハード面に重点を置くという整理がいいのではないかと。

○ 藤田八暉分科会長

第2節2「総合的交通体系の確立」のところでは生活道路のことが書かれていないので、広域幹線道路の整備拡充という表現ではなくて、幹線道路と生活道路を並立して表現してはどうか。

■ 事務局

現行計画での整理を引き継いで、道路について、広域道路の方は交通体系、生活道路は都市基盤という整理をしているが、生活道路も含めて交通体系で整理するということがよいか。

○ 藤田八暉分科会長

身近な生活道路の整備が、これから総合的な交通体系を確立していく上でもポイントではないかと。

○ 坂井政樹副分科会長

快適な都市基盤・生活基盤の構築で、道路という表現がピンとこないという事ならば、生活道路という言葉にしてはどうかと思う。

○ 大森洋子委員

総合的な交通体系の確立では、交通体系に的を絞ったほうがいいのではないかと。

○ 藤田八暉分科会長

3「快適な都市基盤・生活基盤の構築」の中で、幹線道路、生活道路を整備していくという整理する。

■ 藤田八暉分科会長より「快適な都市生活を支えるまち」について分科会意見を整理。

【小分類「外で活動したくなるまち」について】

○ 池尻登委員

放置自転車や盗難自転車、自転車事故が非常に多いので、マナーアップなどを考えるべきである。自転車が似合うまちづくりの言葉だけでは、現状はなかなか厳しい。

○ 坂井政樹副分科会長

低炭素、エネルギー、健康など、自転車が似合うまちづくりの方向性をもっておこなうべきではない。

○ 坂井政樹副分科会長

ユニバーサルデザインについて、ハード面のバリアフリー環境の整備のようにふれられているが、これは違うのではないかと。

■ 事務局

都市基盤、いわゆる「誇りがもてる美しい都市」という、どちらかといえばハード整備的な都市像の中に置いているため、少しハード面に偏った表現になっている。例えば、第2章「市民一人ひとりが輝く都市久留米」には、障害者、高齢者のための施策があるが、ユニバーサルデザインは福祉だけではなく外国人や子どもに対するものでもあり、広い概念であるために置きようがなく、ハード整備のところには置いている。

○ 大森洋子委員

外で活動したくなるまちでは、あくまでも「歩く人が中心」という事を強調していただきたい。人が集まることによって賑やかさも出るし、「賑やかさが演出できるのは人が中心だから」というような事もふれて欲しい。

○ 深井敦夫委員

「歩きたくなる道づくり」と書いてあるが、歩行者が主役というようなフレーズを入れ、「歩きたくなるまちづくり」でも良いのではないか。

■ 藤田八暉分科会長より「外で活動したくなるまち」について分科会意見を整理。

【小分類「環境を育み共生するまち」について】

○ 藤田八暉分科会長

第四節の3「生活環境の向上と自然環境の保全」を、生活環境の向上と自然環境の保全を二つに分けて、「豊かな自然環境の保全と共生」、「快適な生活環境の保全」という環境基本計画と同じような柱立てにしてはどうか。「豊かな自然環境の保全と共生」では、生物多様性基本法に基づいた地域戦略の策定が求められ、また、「快適な生活環境の保全」についても、PM2.5 などに対する取り組み、環境汚染の防止などもやっていかなければいけない。

また、「1花と緑あふれる空間づくり」の中の関係する部分を、「豊かな自然環境の保全と共生」で整理することも検討して欲しい。

■ 藤田八暉分科会長より「外で活動したくなるまち」について分科会意見を整理。

3. その他

■ 事務局より、次回分科会の日程調整について説明

4. 閉会

○藤田八暉分科会長より、閉会のあいさつ